

1. 大量虐殺の本格審理開始、ポト派法廷

10/17、カンボジアの旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷は、ポト派ナンバー2だったヌオン・チア元人民代表議会議長(88)とキュー・サムファン元国家幹部会議長(83)の元最高幹部2被告について、分割審理の2番目となる裁判の本格的審理を開始した。

両被告に対しては、8月に分割審理の1番目の裁判で終身刑の一審判決が言い渡された。特別法廷は二審制で、両被告は9月に控訴したが、二審の公判はまだ始まっていない。この日の公判で両被告は、1番目の裁判の二審を2番目の裁判より先に進めるべきだなどと主張した。1番目の裁判では1975～77年の住民強制移住などに関する「人道に対する罪」が裁かれた。2番目の裁判は少数民族チャムやベトナム人の「大量虐殺罪」などを扱い、今年7月末に公判が始まった。

2. パイリーン(ポル・ポト派の最後の拠点)に、タイ資本が動物飼料製造所設立

タイのコングロマリットとして有名な、Charoen Pokphand 社の子会社である CP Cambodia が、2つめとなる飼料専門の工場を来年設立する予定だ。CP Cambodia の代表 Uthai Tantipimolphan 氏によると、Pailin 州に 800 万ドル投資で作られるこの施設では、18 万トンの動物飼料を毎年製造する見通しで、2015 年の中頃に操業を開始すること。「建設はすでに始まっています。終わるまでに8ヶ月はかかるでしょう」、と彼は言う。CP Cambodia はすでに1箇所、Kandal 州に動物飼料の製造工場を設立している。商務省のデータでみると、CP Cambodia は、生きた豚を輸出する会社のなかでは最大であり、今年になって半年間のあいだに、合計2万5千頭の豚を輸出している。

Pailin 州農業署の副代表 Chhil Chhen 氏は、「CP Cambodia が、北西に向かって事業を上げたのは当然でしょう。CP のプランは、農家にとっても会社にとっても良い影響をもたらしてくれます。パイリーンは、カンボジアで一番多くのキャッサバとトウモロコシを生産している土地です。CP Cambodia は、パイリーンの生み出すこの2種類の野菜を、動物飼料製造の原料として使用しようと考えているのです。例え足りなくなったとしても、Pailin 州と距離の近い Battambang 州や Bantey Meanchey 州からすぐに輸送できると考えたことも、Pailin を選んだ理由です。Pailin には2万3000ヘクタール近いキャッサバ畑があり、およそ4385ヘクタールのトウモロコシ畑がある。Pailin では近年、畑1ヘクタールあたり、キャッサバだと25トン、トウモロコシだと3.5トンを生産できるようになっている」と話す。

ここでトウモロコシの売買を行っている Song Sarom さんは、Kandal 州にすでに CP Cambodia が立っている資料製造所に、トウモロコシを提供している。「農家にとっても業者にとっても、良い知らせです。私達の農作物を買ってくれる場所が増えたということです。マーケットと同じ価格で買い取って欲しいと思っています。また、収穫期に買取価格を下げるのは止めていただきたいです」と話す。

2013年の農務省のレポートによると、カンボジアでは現在7箇所、飼料工場が存在しており、1年間に100万トンの動物用資料を生産しているとのこと。しかし、これだけ生産しているにも関わらずいまだ完全に需要を満たしてはいない、とレポートは報告している。

3. 事故を起こしたドライバーの行方を追う

9/17、仕事を終えた縫製業の労働者たちが載ったトラックが事故を起こし、40人が負傷する事故があった。現在 Svay Rieng 州警察はトラックを運転していたドライバーを逮捕しようと調査している。Kampong 地区警察所長の Ham Samuth 氏の話では、Bavet 特区にある工場から50人の労働者を搭載して運行していたトラックが、途中車体に異常を起こして横転したのだという。「50人がトラックに載っていましたが、途中でタイヤに何らかの問題が発生しました。ドライバーはそれをコントロールしきれずに横倒しになり、36人が軽い怪我をし、4人は重症を負いました」と話す。「私たちはいつも、トラックドライバーに対し搭載人数は25～30人に抑えるように、と伝えてきました。その人数だと全員が荷台に座るスペースをとれるからです。しかし今回ドライバーは私達の忠告を聞いていませんでした。彼を逮捕し、法に則り罰さなくてはなりません」と話す。Samuth 氏によると、ドライバーであった Keo Sam Oeun さん25歳も事故で怪我を負っていたが、治療に搬送された際に病院から逃げ出したのだという。

4. ジーンズの盗人が逮捕される

プノンペン、トゥールコックの警察官が、工場からジーンズが大量に盗まれた事件で、犯人4人の警備員に加担していた別の犯人3人を逮捕した。彼らは同僚の警備員をドラッグで眠らせ、そのすきにジーンズ約2万着を Roo Hsing 縫製工場から盗み出した、とされている。Teuk La'ak III コミュニティーの Chan Hai さんによると、この3人は盗まれたも

のと思われるジーンズおよそ 1000 キロを、Hengly 市場で売りさばっていたところを発見されたために逮捕されたようだ。「警察は、400 キロほどのジーンズが詰め込まれたカバンを 6 つ押収していました。店のオーナーは、プノンペン裁判所で検察官による尋問を受けました」と Chan Hai さん。トゥールコックの警察によると、捕まったのは、バイクタクシードライバーの Ku Koeurn さん 49 歳と、建設現場で働く Keurn Chetra さん 43 歳、Ther Sothy さん 42 歳だ。彼らは、別のバイヤーに売りに行くためにジーンズをバッグに詰めたいところを逮捕された。民間警備会社の ESP 社に所属する 4 人の警備員が、同僚の 6 人が飲むコーヒーに薬をいれて眠らせ、そのわずかなすきにジーンズを運び去った。他にも 2 人が勤務にあたっていたが、彼らは自発的に居眠りをしていたようだ。監視カメラは、犯人がトラックを使って衣類を運び去る場面を写しており、被害金額はおよそ 100 万ドルにも上るといふ。

5. GMAC、「縫製業界の受注量が減少」と発表

縫製業界が長期間に渡って不安定な状態になっていることを受けて、Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC) は、2014 年の残りの期間に対して暗い見通しを出した。ポスト紙が入手した調査資料によると、GMAC に加入する 247 社のうちおよそ 50% は、今年残りの期間、十分な利益を出せるほどの受注を受けていないと話した。また、160 社は受注が平均で 40% 減ったと話し、26% の工場は受注が足りないせいで、ラインを一時的に停止させたり、操業を休止したりせざるを得なかったという。GMAC の Ken Loo 氏は、「バイヤーたちは、この国の縫製産業が不安定だと考え、商品の納入も遅れてくるのでは、と心配しています。工場自体には商品を製造、納入する能力が備わっているのですが、ストライキの驚異が彼らの頭を離れないようです。いくつかの中小バイヤーに加えて Wal-Mart や H&M、Levi Strauss などが、発注量を減らした主な企業です。Wal-Mart、H&M、Levi Strauss などの企業とも連絡はつかなかったのだが、すべての企業が社会的な安定と、労働者の権利の確立を求めているのが現状です。Levi Strauss 社に関しては、カンボジアで市民や労働者の権利が十分に確立されていないことが、かなり気にかかっている様子です」と話す。

この調査が公表されたのは、最低賃金を定めるための話し合いがヒートアップしてきたタイミングだ。9/15、労働組合代表 8 人が記者会見を行い、「もし最低賃金の話し合いが自分たちにとって納得の行く結果にならなかったら、全国的なストライキが起こるでしょう」といった内容の発言をした。9/15 の会議で、労働組合は最低賃金を現行の 100 ドルから 177 ドルまで引き上げるようにと、引き続き要求した。Loo 氏は、「GMAC が今回調査結果をこのタイミングで公表したのは、月曜日の労働組合の会見となにか関係があるのでは」、という声を否定した。代わりに彼は、「わたしは調査結果を、組合や政府、Labour Advisory Committee と共有しましたが、それはバイヤーたちがストライキの騒ぎにどう反応しているのかを検証するためが第一です。また、GMAC に加入する工場の多くは、賃金引き上げは最大でも 110 ドルまでが限界だ、という立場を示しており、わたしはそれをサポートしたいと考えています。最低賃金の額が高ければ高いほど、工場を続けて操業していくことはより難しくなっていくでしょう」と話した。

また、人権団体 Solidarity Center の地域部長である Dave Welsh 氏は、「GMAC の出したデータが完全に正しいかどうかは分かりかねますが、カンボジア縫製業界の受注量がこの 1 月以降減少したのは間違いありません」と話す。また「縫製業界に関わるマイナスの事件は他にも数多く起きており、業界にとっては大きな打撃となっています。最低賃金引き上げを求める労働組合たちの声が、直接の原因とは言い切れません」と付け加えた。

6. 労働組合、欧米衣料バイヤーに訴え



9/17、およそ 500 人の縫製業労働者が、Canadia 産業地域内に集まった。1 月に警官隊が発砲し死者を出した現場からほど近い場所で、「欧米衣料ブランド企業は、衣料製造労働者達の生活水準に見合う賃金を保証すべきだ。カンボジアの労働者を飢えさせているのは Zara だ！」などと書かれたバナーを掲げ、若い男女が小規模なデモを 1 時間に渡って行った。「C&A はカンボジア労働者を餓死させる！」というバナーもあった。参加していた人々は、「THE BUYER MUST PROVIDE BASIC WAGE \$177 (バイヤーは賃金 177 ドルを保証しなくては行けない)」と書かれた T シャツやステッカーを身につけていた。文字のうえには、H&M や adidas、GAP などのブランド各社のロゴもあった。

最低賃金に関して、昨年 12 月、労務省が当初組合側が求めていた 160 ドルではなく 100 ドルまでしか引き上げなかったことにより、大規模な全国ストライキが発生した。このとき彼らは政府や工場に向けた訴えを行っていたが、今回は欧米衣料ブランド企業に対して、訴えが行われた。「ブランド各社は、賃金戦争に自分たちは関係ない、とはもういってられません。私たちが働くことによって利潤を得ているのは彼らなのですから」と Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU) の副代表 Kong Athit 氏はその集まりのなかで話した。工場およそ 300 箇所の

労働組合によって企画された9/17のイベントは、「インダストリアル・キャンペーン」(業界全体で取り組む抗議運動)とされ、最低賃金 177ドルを求める声を上げた。しかし中には、少なくとも 150ドル、ということで妥協点を見出そうとしている組合員もいる。

労務省の調査では、「縫製業に従事する労働者達は、平均で 155ドルから 177.50ドルを月々に消費している」、との結果が出ており、最低賃金 177ドルはこれから出た数値である。組合員達はその調べについて、「これこそが私達が必要としている生活経費である」と賛同したが、GMACのKen Loo氏は、「労働者達が月々に使うというこの金額は、ただ単に彼らの収入をそのまま反映しているもので、このうち 95ドル程度は生活費ではなく個人的なものの購買でしょう」と話す。2015年を最低賃金を最終的に決定するのはLabour Ministry's Labour Advisory Committee (LAC)の場だが、この会議もあと1ヶ月後に迫ってきている。C.CAWDU代表のAth Thorn氏は、「労働組合はこれから、より交渉の場を要求していきます。」と話した。

Gap、H&M、Adidasを代弁するスポークスマンは、次のように3社の意見を伝えた。「私達はもちろん労働者の生活をサポートしたいと思っており、政府や現地のNGO団体、労働組合などと適宜連絡をとっています。しかし、最低賃金の設定はあくまでカンボジア政府が決定することであって、私達の介入できるものではありません」。インターコンチネンタルホテルで行われた会議には、政府関係者やGMACメンバー、労働組合員などが参加した。Cambodian Federation of Employers and Business Associations副代表のD'Amico氏は、「169社の工場で、平均40%の受注減が見られました。労働者達の合計の収入が、貧困の原因となっているわけではありません。残業代や、出来高のインセンティブなどがあります。今日私達が考えるべきなのは、カンボジアと比べて他国のほうがバイヤーにとって魅力的になってきている、ということです」と話す。

しかし、北アメリカの労働団体SEIUと、国際的な労働団体IndustriALLがカンボジアの労働者の最低賃金引き上げを支援する計画をしていることがわかった。またSEIUのJe' Hermanson氏から、「アメリカとカナダのおよそ30都市で、デモ活動を行います」、との電話があり、昨日の夜にはIndustriALLから「私たちは、韓国とオーストラリア、スイスとベルギーにて活動を行います」、とのメールが届いた。それについてGMACのKen Loo氏は、「労働者達の賃金はバイヤーのポケットから出てくるものです。もしもっとカンボジア人の仕事にお金を払ってくれるのであれば、もちろんもっと労働者達に支払うことができます」と話した。

7. 労働者達の食事情

カンボジアの縫製工場で働く労働者のおよそ半数近くが貧血状態で、15%が国際標準の体重を下回っていることが、9/29に発表された。The International Labour Organization 所属のBetter Factories Cambodia (BFC)が、労働者の健康状態と生産性を調査しまとめた基準値を公表した。今回の調査を引導して行ったAngkor Research and Consulting Ltd代表のIan Ramage氏は、「ただ単に食べる量が少ないようですが、私にとって驚きの結果でした。大変興味深いです」と話す。データによると、縫製業労働者の43%以上が貧血状態で8%は深刻な飢餓状態にあるという。この調査は、5月から6月にかけて10箇所の工場、4000人の労働者を対象にしている。Ramage氏は、「データはPhnom Penh、Kampong Speu、Kandalの3州で取り、だいたいカンボジア全体の平均数値と一致しています」と話した。人権団体Solidary Centerの地域部長Dave Welsh氏は「この調査結果は、なぜカンボジアで大量の労働者が失神を起こすのか、どう問いの答えにもなるでしょう。労働者の食料摂取不足を改善するためのアプローチが必要となります」と話す。

Welsh氏は、「賃金の引き上げとともに、勤務中の健康的な食事は保証されるべきであり、また、賃金引き上げに伴って家主が家賃を引き上げるのを防ぐため、家賃統制も必要だ」という。しかし、別の意見もある。GMACのKen Loo氏は、「今回の調査で出てきた数値が、すべての労働者に当てはまるわけではありません。それに、労働者たちは自分たちの食費のことを考えず、別の買い物をしてしまうこともあります。彼らの賃金では食費が足りないと、誰が言い切れるでしょう。彼らの大半がスマートフォンを所持しているというのに」と話した。

8. 洪水が首都を襲う



9/28、3時間に渡って集中的に降った大雨により、プノンペンでは多くの家が水に浸かっていた。これに対し、大雨の影響を最低限に抑えるための対策をとっていない自治体や政府に対する不満の声が多くあがっている。ボンケンコンでバイク修理を仕事にしているHang Daraさんは、「私のところでは腰のあたりまで浸水し、バイクは壊れてしまいました」と話す。Boeung Kakの土地問題に関わっているおよそ50人は、シティホールに集まって、政府はすぐに自分たちの移住地に溜まった水を排出させるように要求した。

「しかし市はなにもしれくれなかった」と Boeung Kak 問題の活動家である Song Srey Leap 氏は話した。市のスポークスマンである Long Dimanche 氏は、「洪水はプノンペンの中のどの地域でも起こっているもので、事前に予測できることでもありませんでした。活動家達は、ただ非難をするだけでなく洪水被害を軽くするために少しでも努力をするべきなのではないでしょうか」と話す。一方、専門家の Kem Ley 氏は、「洪水による被害は、下水道を適切に整備していない政府の責任が大きいと思います」と話す。Facebook 上にも、洪水被害を受けた市民達が適切な対策をしてこなかった政府を非難する内容の投稿が多く見えた。

以上